^{令和4年度第2次補正} 探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金

探究的な学び支援 補助金2023

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社STEAM Sports Laboratory

【サービス名称】

STEAMタグラグビーアドバンス

【サービスの機能分類】

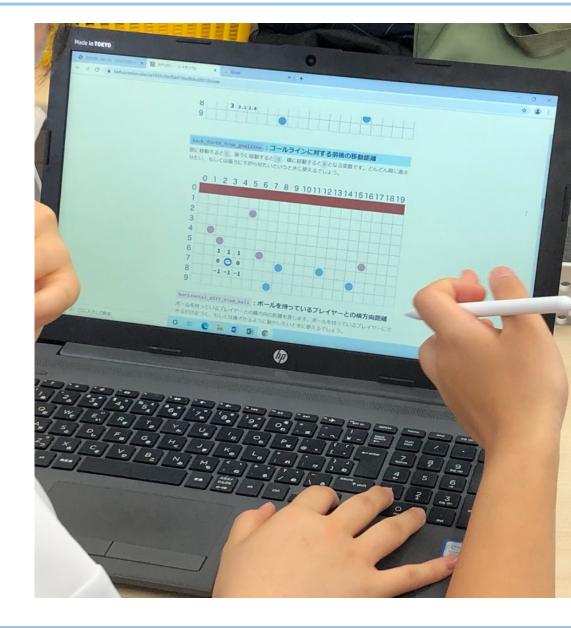
区分A-1 メインサービス

2024年1月



サービス概要

名和	尓	STEAMタグラグビーアドバンス		
∃ £	ጎ	タグラグビーの戦略要素を定義し、 シミュレーションソフトを作成。同ソフト を活用しながら、パフォーマンス向上を図る		
対象学年	F	中学生~高校生		
教 私	¥	保健体育、数学、情報、探究		
利用場所	Ή	協働学習、プロジェクト学習		
教材内容	5	プログラミング(シミュレーション)教材		
サポート教員研修(講師派遣)、オンラインサポート				
料金体系	Ŕ	教材費(指導案、ワークブック、プログラグビー) 導入支援費(教員研修、オンラインサポート)		
動作環境	·····································	タブレットPC(カメラあり)、Wifi		



サービスの特徴

■ スポーツを起点とした探究教材

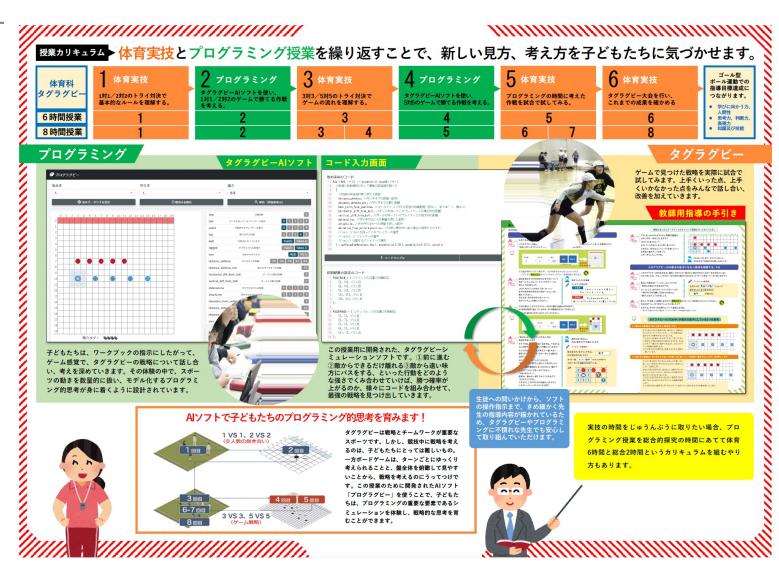
「点数が取れない」や「相手を止められない」等、スポーツシーン(タグラグビー)における問題を数学的見地から捉えたり、プログラミングを活用し、戦略シミュレーションを通じて問題解決を探究するSTEAM教材です。

■ 思考を言語化(情報)

タグラグビーの戦略を考えるために、戦略シミュレーションソフトを作ります。戦略を決める要素を変数として定義し、コーディングすることによって、自身の戦略思考をソフト化します。

■ 戦略シミュレーション(情報)

ビデオ分析でゲーム中の思考を整理した上で、作成した戦略シミュレーションソフトを使って、俯瞰的に分析。気付いたことを実技で実践しながら、チーム力を高めていきます。



体育現場における課題と対策

1. 生徒の二極化(やる気、技能・体力)にどう対応するか

☞「活躍機会の増」及び「学びの観点増」

2. 体育と情報・探究をどう融合するか

☞「指導ガイド」や「研修会」による支援

3. ICTをどのように活用するか

☞「戦略シミュレーション」や「映像分析」

1. 『生徒の二極化(やる気、技能・体力)』に対する活用事例

活躍機会(役割)を増やす

学びの観点を増やす

従来

どうしても運動面のみがフォーカスされるため、身体能力の高い生徒にしか活躍の機会がなく、自ずとやる気と体力の二極化が生じる。

従来

フィールドで実技をしながら、競技特性(どのようなゲームであるか)を理解しなければならないため、ついていけない生徒がでてくる。

今回

シミュレーションソフトを作成し、それを活用 することにより、スポーツを運動面のみなら ず、戦略・分析思考にも焦点を当てることがで きる。

今回

シミュレーションソフトの作成及びそれを活用 した分析を通じて、自身の動きや競技を俯瞰し ながら、フィールドでの動き方を探究できる。

身体能力で自信が持てない生徒も、戦略立案やゲーム分析 等で活躍機会が与えられるため、結果的に体育に対するや る気が向上し、体育への参加に繋がっている。 体を動かしながら技能を習得するのが苦手な生徒も、競技 特性を理解してからプレーできるため、何をしてよいのか 分からないということが軽減される。

2. 『体育と情報・探究の融合』に対する活用事例

学習指導案による質の担保

指導者導入研修の実施

オンラインサポート

AI を強くする方法

右図でボールをもっているプレイヤーの行動の 選択肢を考えてみます。このとき、移動をする選 択肢とパスをする選択肢の二つがありますが、そ れぞれの移動は8つ、パスは2つの候補がありま す。前にいる N2 とパスをするのに遠すぎる Q8 のプレイヤーへはパスをすることができないの で、除外されています。

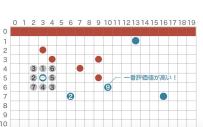
移動の選択肢の座標はコード上では movablelist、パスの選択肢の座標は passlist いう配列に入っています。今回の場合

movablelist = [[2,4],[2,5],[2,6],[3,4],[3,6],[4,4],[4,5],[4,6]]
passlist = [[6,7],[10,6]]
となります。

AI は移動の選択肢 movablelist、パスの選択肢 passlist のそれぞれに評価値をつけて、一番大きい値のところを選択します。この時、評価値の

リストは eval_list に入れます。

例えば評価値が右図のようになったとしましょう。 この時 eval_list は以下のようになります。









3. 『ICTをどのように活用するのか』に対する活用事例

戦略シミュレーション(思考を言語化)





映像を活用しゲーム分析



導入実績数

■ 私立高等学校 1校

合計 1校に対し100人 の生徒に導入

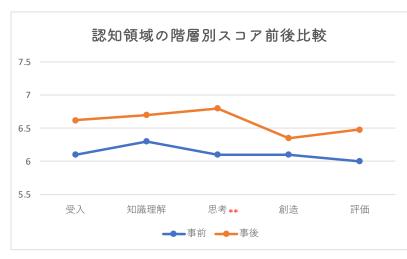
設置者	教育機関	導入数
学校法人守屋教育学園	吉祥女子高等学校	100

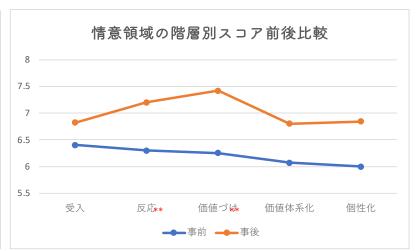
認知・情意領域の評価(有効回答数N=86)

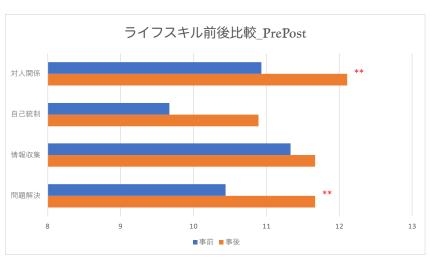
授業が児童生徒の認知領域及び情意領域の形成に効果的であったか否かを評価。従来の体育の授業効果をPre-測定、本教材授業の効果をPost-測定として、従来体育との比較を行った。認知領域は「受け入れ、知識・理解、思考力、創造力、評価」、情意領域は「受け入れ、反応、価値付け、価値の体系化、個性化」の5段階から構成され、右に行くほど高次で行動変容に結びつきやすいと言われる(各項目8点満点)。従来の体育と比較すると、いずれの領域においても、総じて上昇したことが確認された。

ライフスキルの評価(有効回答数N=86)

問題解決能力をはじめ、それに求められる情報収集能力や対人関係能力等、WHOの提唱するライフスキルの形成に効果的であったか否かを評価するために、Life Skills測定尺度(山田, 2016)を用いて、授業前後の結果を比較することにより、介入の効果を検証した(各項目15点満点)。問題解決能力、対人関係能力において、1%水準で有意に上昇した。







導入・運用に向けた課題と対策

1. 導入予算・費用の問題をクリアできない

教育委員会等へのアプローチ・説得不可避

- 導入事例・実績をプロモーション
- ・企業スポンサーの活用 (プロラグビークラブ等との連携)
- ・企業努力による導入価格低減 (研修オンライン化等)



導入・運用に向けた課題と対策

2. 一部教員の指導に対する不安を解消できない

分からない・自信がないを解消

- 体育・情報研修機会創出 (STEAMタグラグビーを受講)
- 体育教員と情報教員との連携支援 (研修の中で仲介)
- 「一緒に学ぶ」指導案の作成 (教えない授業の進め方を普及)



生徒のコメント

- どんな動きでもコードに落とし込めるところが面白いと感じた。コードで表せるものと表せないものの違いについて少し調べていきたいと思った。
- プログラミングは難しいという印象がとても強くて、どこか自分とは無縁だと思っていましたが、実際に動かしてみると難しいの中に楽しいがあって、自分の考えがAIに反映された時はすごく嬉しかったです。もっと色んな式を様々に組み合わせてみて新しい発見がしたいです。
- 今回データ上で「このような設定にするとこうなって勝てる」、「この場合は何があっても絶対負けてしまう」といった分析をすることで実践に生きてくるのかなと思いました。タグラグビーをしている時は部活学年関係なく楽しめていいコミュニケーションが取れたと思います。
- プログラミングは入力や手順を間違え、エラーに混乱したのでシステムが動いてくれるだけでも嬉しかった。実技は頭では考えているが、体が何も考えていないという部分が多く、実際試合で戦ってみると作戦と違うな…と思うことが多かった。でも、スポーツの難しさと楽しさを改めて実感できたいい機会だった。



生徒・教員のコメント

- 最初はどうやってAIを動かせばいいのか全く分からなかったけど、授業を受けてひとつひとつのプログラミングの文の意味を理解してどんどん分かっていくのが面白かったし嬉しかった。
- 今まで意味の分からなかったアルファベットと記号の羅列が、ルールを 知った上で見ると意味が少しわかるようになって嬉しかったです。
- コードを見るだけで気持ちが伝わるという話を聞いて面白い世界だなぁと感じた。運動と、結びつけることができるプログラミングはすごく興味深いと思っていたので、いろんなことを教われて嬉しかった。
- 実際にタグラグビーをやって、どんな動きをすれば良いのかを机の上で考え、自分たちでプログラミングを組み立ていくというプロセスは、まさに思考を言語化(コーディング)していることであり、AIだけでなく、人とのコミュニケーションスキル向上にも繋がると感じた。
- シミュレーションしながら、思考を繰り返すことがタグラグビーの上達も 早めるんじゃないかと思います。何よりも、生徒たちが楽しそうでした。



企業PROFILE

企業名	株式会社STEAM Sports Laboratory
所在地	東京都世田谷区上用賀1-1-1-102
設立	2018年11月19日
資本金	19,500千円
代表者	山羽 教文
事業内容	スポーツ教育サービスの開発・運営 スポーツ教育キャンプ・スクールの企画・運営
売上高	81,000千円(2023/9月期)
経常利益	17,000千円(2023/9月期)
問合せ	info@steams-jp.com

